

【委員所属・経歴等】

<p>委員長</p>	<p>すみとも つよし 住友 剛</p>	<p>京都精華大学 人文学部総合人文学科教授 日本教育政策学会理事、公教育計画学会理事 体罰をみんなで考えるネットワーク代表</p> <p>1999年 関西大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程を単位修得後退学 (その後、2004年まで関西大学非常勤講師)</p> <p>2001年 京都精華大学アドミッション・オフィス特任講師</p> <p>2004年 京都精華大学人文学部専任講師</p> <p>2008年 京都精華大学人文学部准教授</p> <p>2014年 京都精華大学人文学部教授 (現在に至る)</p> <p><主な著作・論文など></p> <p>○研究等 教育学・子どもの人権論の立場から、学校現場で起きる子どもの事故・事件の事後対応のあり方 (特に事実経過の調査や再発防止策の検討、被害者家族・遺族への対応等) について研究・実践活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県川西市・子どもの人権ワブズパーツ調査相談専門員 (1999年4月～2001年8月) 公立中学校ラグビー部の夏休み中の早期練習中における熱中症死亡事故の事実経過の調査、再発防止策の検討・実施などに従事。 ・2004年から全国学校事故・事件を語る会などの活動にかかわり、学校事故・事件の被害者家族・遺族への支援にあたる。 ・京都市立養徳小学校プール事故第三者調査委員会調査員 (2013年10月～2014年4月) 公立小学校で夏休み中に起きたプールでの死亡事故に関して、第三者調査委員会の指示の下、子どもや保護者、教員、遺族などからの聴き取り調査に従事。 ・文部科学省スポーツ・青少年局「学校事故対応に関する調査研究」有識者会議委員 (2014年度～) <p>○著作 (共著含む、主要なもののみ)</p> <p>『はい、子どもの人権ワブズパーツです』(解放出版社 2001年)</p> <p>『日本近代教育の支配装置—教員処分体制の形成と展開をめぐって』(岡村達雄編著 社会評論社 2002年)</p> <p>『子どもの声を聴く めっせーじ・ふろむ・チャイルドライン OSAKA』(社団法人子ども情報研究センター、山下裕子・井上寿美・住友剛編著、明石書店、2003年)</p> <p>『人権教育総合年表 同和教育・国際理解教育から生涯学習まで』(上杉孝實・平沢安政・松波めぐみ編著、明石書店 2003年)</p> <p>『指導死』(大貫隆志編著、高文研 2013年)</p> <p>○論文</p> <p>子どもの人権ワブズパーツ制度の実際—「調査相談専門員」としての経験から (季刊教育法第147号 2005年)</p> <p>子どもの死亡事故・事件の遺族側から見た学校保健安全法—「事後対応の在り方をめぐって— (京都精華大学紀要第38号 2011年)</p> <p>いじめの現状—大津いじめ事件から見えるもの— (日本教育法学会年報第43号 2014年)</p>
<p>委員</p>	<p>こさきい りょうた 小佐井 良太</p>	<p>愛媛大学法文学部総合政策学科准教授 日本法社会学会理事、子ども安全学会理事</p> <p>2006年 九州大学大学院法学研究科基礎法学専攻博士課程修了</p> <p>2008年 愛媛大学法文学部総合政策学科准教授 (現在に至る)</p>

委員	こさきい りょうた 小佐井 良太	<p><主な著作・論文など></p> <p>○研究等</p> <p>中学生の部活動中の死亡事故、大学生の飲酒死亡事故、飲酒運転による死亡事件等、「死別の悲しみ」を伴う事件・事故に関連した法的問題を取り挙げ、法社会学の視点から法律上または制度上の問題点や問題解決のあり方を検証する研究に取り組んでいる。これまでに多くの事件・事故の被害者遺族、関係者に対する聴き取り調査を行っており、学校死亡事故に関しては、熊本県の中学校で起きた部活動中の死亡事故をはじめ、計7組の被害者遺族・関係者に対する聴き取り調査や裁判傍聴等を行っている。</p> <p>論文「飲酒にまつわる事故と責任（一）～（三・完）——ある訴訟事例を通してみた死別の悲しみと法」九大法学 88号、93号、94号（2004年、2006年、2007年）にて、2007年度日本法社会学会・学会奨励賞（論文部門）受賞。</p> <p>○論文</p> <p>「飲酒にまつわる事故と責任（一）～（三・完）——ある訴訟事例を通してみた死別の悲しみと法」九大法学 88号、93号、94号（2004年、2006年、2007年）</p> <p>「学校死亡事故をめぐる「救済」と法（一）～（二）——ある訴訟事例の検討を手がかりに」九大法学 95号、96号（2007年、2008年）</p> <p>『「死別の悲しみ」を伴う紛争事例の解決をめぐる——定期金賠償方式に基づく『命日払い』請求再考』交通法研究 38号（2010年）</p> <p>『「死別の悲しみ」と金銭賠償——法は死者を悼みうるか』江口厚仁・林田幸広・吉岡剛彦（編）『圏外に立つ法／理論—法の領分を考える』（ナカニシヤ出版、2012年）所収</p>
委員	いししいちろう 石井逸郎	<p>弁護士（ウェール法律事務所）</p> <p>1995年 京都大学法学部卒業</p> <p>1997年 弁護士登録（第二東京弁護士会）</p> <p>2002年 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科非常勤講師、～2009年3月）</p> <p>2005年 帝京大学法学部客員准教授（民事訴訟法担当、～2009年3月）</p> <p>2009年 第二東京弁護士会副会長（～2010年3月）</p> <p>2010年 第二東京弁護士会刑事弁護委員会委員長（～2011年3月まで）</p> <p>2013年 第二東京弁護士会法科大学院支援委員会委員長（～2015年3月まで）</p> <p>2014年 関東弁護士会連合会理事（～2015年3月）</p> <p><主な活動・著作・論文など></p> <p>上記のほか、第二東京弁護士会の子どもの権利委員会にて「子ども悩み事相談」の担当、法教育委員会にて中学校での「法教育」の授業を担当。</p> <p>○著作</p> <p>「法律がわかる事典」（日本実業出版社 2003年、編集責任）</p> <p>「契約書の書式分例 77」（同文館出版 1999年）</p> <p>「図解 会社法のしくみと実務知識」（同文館出版 2006年）等</p> <p>○論文</p> <p>「国家公務員法違反被告事件における2つの高裁判決の分岐点はどこにあったか」（「法の科学」第42号所収）</p>